

環境と健康

食の安全・安心をテーマに毎年実施している食のセミナーを、2月8日

平成28年度食のセミナー開催 食の安全と安心のために



に開催しました。当日は、行政関係者、食品事業者など100人が参加し

ました。今年(有)食品環境研究センターの新蔵登喜男代表に「食品企業におけるHACCPの導入について」と題し、HACCPのメリットと、導入に成功するための具体的な取り組み方法や注意点について講演をいただきました。

最後に、当協会からの情報提供として、国のHACCP制度化に向けた導入支援事業を紹介しました。食品事業者様のHACCPシステム構築のお手伝いができればと思います。

分科会②環境家計簿の目的について話し合う(上)、分科会③「マンネリ打破・仲間づくりについて意見交換(下)」



「脱温暖化推進員フォーラム2017」開催 実践活動の活性化なら情報交流

2月10日に、「脱温暖化推進員フォーラム2017」を合人社ウエブサイト・まちプラザで開催し、県内各地から約60人が参集しました。脱温暖化センターひろしまでは、県内で行われている脱温暖化活動の情報や課題などの共有および交流を通じて、温暖化防止活動の輪を広めようと、毎年開催しています。

参加者からは、「他団体との情報交流が課題解決のきっかけになる」「参加者と企画者が楽しいと感じる企画の展開が

重要」などの声が聞かれ、今後の事業活性化につながるヒントが得られたようです。

私が働く健康科学館は健康をテーマとした科学博物館ですが、実はもう一つ別の大切な仕事もしています。子育て支援です。乳幼児と保護者が一緒に遊ぶ「遊びの広場」は10時から15時まで、開館日であれば毎日開いています。いざという時、子育てを助けてほしい人と助けたい人が会員となり、子育てを行う「ファミリーサポートセンター」。第二子を妊娠中の夫婦に助産師が出産や育児の手ほどきを

「脱温暖化センターひろしま」

「環境生活センター」

仕事と子育ての両立

親達の思いを理解し、経験と知恵で仕事の効率を上げ、子育てしやすい職場に変えていく。加えて、地域においても、小さな子どもを持つ親に、近所の人々が気やすく支援の手を伸べる。そうすれば、男女ともに安心して仕事も子育てもできるのではないのでしょうか。若い親達が仕事と子育てを両立できる環境づくり、少子化社会を生きる私たちにはとても大切なことだと思います。

（広島市健康科学館館長 高尾ひとみ）

一般財団法人広島県環境保健協会

おかげさまで60年 住みよい未来を これからも

おかげさまで60年

60周年記念ロゴマーク

このマークは、60でハートを表現、情熱と健康をイメージしています。取り巻く輪は環境を表します。

私たちは、公衛協や地域住民をはじめ、行政や企業など、さまざまな人々のおかげで60年を迎えることができ、これからも支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに『みんなの生命(いのち)をまもりたい』の理念の下、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組んでまいります。

「わたしのCOOL CHOICE大募集!」事業 温暖化防止に向けた工夫やアイデア集まる



脱温暖化推進員フォーラム2017で行われた表彰式(上)、真似したい取り組み2件に投票(下)

脱温暖化センターひろしまでは、環境省が推奨する国民運動「COOL CHOICE(=温暖化対策に資する賢い選択を促す取り組み)の普及を通じて、家庭での温暖化対策をより推進するため「わたしのCOOL CHOICE大募集!」事業を実施しました。

この事業は、平成28年11月28日から平成29年1月20日を期間に、温暖化防止のために日頃実践している取り組みを募集。1次・2次選考会を行い、優秀な取り組みを表彰するとともに、今後の普及啓発活動等に活用し広めていくことも目指しています。

11市町から74人の応募があり、服装に関することや買物、住まいや暮らし方、家電の使い

方に関する157件の工夫やアイデアが寄せられました。

1次選考会は1月31日に実施しました。選考委員は脱温暖化センターひろしま運営委員およびTEAM MATEひろしま代表副代表の7人をお願いし、取り組み一つひとつを5つの基準で採点。合計得点の高い順に24件を選考しました。

2次選考会は2月10日に実施。脱温暖化推進員フォーラム2017の参加者57人に、24件の中から「ぜひ、真似して取り組みたい」と思った取り組みを2件選んでもらいました。そして、得票数の多い順に、金賞1件銀賞2件銅賞3件を決定しました。結果は下表のとおりです。

受賞者および取り組み内容の一覧

区分	取り組み内容	受賞者
金賞	エコドライブ(ふんわりスタート、エンジンブレーキの活用など)を心がけている。	東広島市 小原 義昭さん
銀賞	着なくなったセーターの首や袖部分を「ネックウォーマー」や「レッグウォーマー」として活用している。	呉市 大野 喜子さん
	冷蔵庫の中身をチェックしてから買い物に出掛ける。	呉市 吉川 美幸さん
銅賞	玄関の照明を「センサー付のLED電球」に買い替えた。	大崎上島町 川口 多美子さん
	冷蔵庫の中の食品は使い切る。	尾道市 細谷 マリコさん
	マンション8階のベランダにグリーンカーテンを設置し、涼しい環境の創出とゴーヤの収穫を楽しんでいる。	海田町 荘川 要さん

平成28年度地球温暖化防止活動推進員新規養成研修 10組23人が県知事から委嘱

脱温暖化センターひろしまの「平成28年度地球温暖化防止活動推進員新規養成研修」を受講した10組23人が、12月7日、地球温暖化防止活動推進員を広島県知事から委嘱されました。

研修は、前期(6月上旬)・中期(6月下旬)・後期(12月)の3回に分けて実施しました。前期で地球温暖化の基礎知識や取り組み事例、企画づくりの手法を学習し、中期で実践する企画を立案、後期で実践結果を報告しました。

実践活動は、出前講座やクールシェア、アイドリング・ストップ、体験講座、緑のカーテン、省エネなどさまざまで、みなさんの今後の活躍が期待されます。

(脱温暖化センターひろしま)



自分たちで企画を作る(上)、企画を発表・意見交換(左)

【実践活動一覧】〔活動名・実践団体の順に掲載〕

- ①子ども向け「出前講座」を興味深く楽しく学ばせ隊 【広島市地球温暖化対策地域協議会】
- ②引き籠もらずに外に出よう!～省和レトロ うずしお うたごえ喫茶♪～ 【脱温暖化ネットおんど】
- ③アイドリング・ストップ推進事業～LOVE クリーン ジュニアとシニアの環境活動～ 【大崎上島けんこう文化の島づくり協議会】
- ④イラスケ川浄化プロジェクト《イラスケ川生物編》 【エコINNくろせ】
- ⑤竹チップコンポスト大作戦 【くい環境会議】
- ⑥「緑のカーテンマップ」の改良 【海田町地球温暖化対策地域協議会】
- ⑦エネルギー体験講座～見えるエネルギーを体験しよう!～ 【かんきょう会議 浮城】
- ⑧エネルギーダイエット～電気で家計ダイエット～ 【脱温暖化福山中央地域協議会】
- ⑨お大師様めぐりウォーキング事業～お宝(ゴミ)さがして健康ウォーキング～ 【福山市今津学区公衆衛生推進協議会】
- ⑩グリーンカーテン写真コンテスト～ゴーヤを食べてCO2を削減～ 【三次市三和地区公衆衛生推進協議会】



私のクールチョイス

④ 広島県編(その2)

このコーナーでは、【買い替え】、【サービス】、【ライフスタイル】の3つの視点で、さまざまなクールチョイスの事例を紹介いたします。

- 【買い替え】省エネで高効率な家電、設備、建築物の低炭素製品への買い替えなど
- 【サービス】公共交通の利用やエコマークの付いた商品、グリーン電力の選択やスマートメーターによる「見える化」につながる低炭素サービスの選択など
- 【ライフスタイル】家庭でのエネルギー消費量・二酸化炭素排出量を減らす取り組みやエコドライブなど

【サービス】(暮らしにあったエネルギー)



エコな生活は、総合科学だと考え実践しています。例えば、エネルギー効率の向上、電気代の節約はもちろん、劣化によるフロンなどの温室効果ガス漏出を防止するため、エアコンを買い替えました。風呂水再利用で使うポンプのホースは、スムーズなカーブにすることで抵抗によるエネルギーロスを減らしています。料理をおいしく作れるガスコンロを愛用していますが、グリルの余熱・排熱を利用し効率的な調理を心がけています。ガスの利用は、エネルギー源分散、多様化による停電対策やリスク管理でもあります。(循環型社会課長 加藤睦子氏)

【ライフスタイル】(森林ボランティア)



自家用車に頼らず、自転車や公共交通機関を活用しています。また、早めのアクセルオフなどエコドライブを心がけ、給油のたびに燃費を計算し、効果をチェックしています。最近まで「クールチョイスって何?」という状態でしたが、ペアガラスを使った家の窓、水道の蛇口を全開にしない、照明をこまめに消すなど、生活の中で無意識にクールチョイスを実践していました。月に1、2回は森林ボランティアに参加し、間伐や育林活動でもCO2削減に取り組んでいます。(自然環境課長 神川勇人氏)

【ライフスタイル】(室温管理)



家庭では、LED照明への切り替え、エコドライブのほか、室温調整とクール・ウォームビズに取り組んでいます。また、寝るとき、子どもは湯たんぽを愛用しています。「一人の100歩より、100人の一歩」という言葉があります。地球温暖化防止をブームにしないために、できることから取り組むだけでなく、「ランプ付き節電タップは本当に省電力か?」など素直な疑問や関心を持つこと、苦痛を感じずに、長く続けていく工夫が大事だと感じています。(産業廃棄物対策課長 柳井義正氏)

第4回は、前回に引き続き、広島県の環境・廃棄物関係の各課長に、日頃取り組んでいる「私のクールチョイス」を紹介していただきます。

環境啓発ポスター・標語コンクール事業事後フォロー活動

事業をPRする助成金20団体が活用

環境啓発ポスター・標語コンクールは、「公衛協」が展開している学社融合的な取り組みを促進し、環境への負荷が少ない持続的発展が可能な社会環境づくりに貢献すること」をねらいに、平成20年からスタートしました。

【表彰式・展示会の開催】

平成28年度は、24団体が参加し、3万7千点余りの応募作品から、77点(ポスター38点、標語39点)が入賞しました。当協会では、環境啓発や公衛協活動のPRとして、応募作品を広く地域住民に広報するための助成(事後フォロー活動経費助成)を

環境啓発や公衛協活動のPRにも高い効果があります。坂町、海田町は小学校を訪問して表彰式を行い、記念品を手渡ししました。庄原市、廿日市市、府中町は環境イベントで表彰を行い、公共施設での展示を行いました。廿日市市では大型商業施設のイベントスペースで表彰を行い、買い物の注目を集めました。

【広報・啓発グッズの作成】

コンクール事業・公衛協の活動に興味をもってもらい、かつ、受賞作品を利用した広報活動や、啓発に用いるグッズの作成を行っています。参加者には記念品として配り、喜ばれています。作品の活用事例として一例をあげると、環境意識の啓発用に配布する広報物の作成や、作品展示会の案内チラシやポスター、祭りやイベントで使用する展示パネルなどがあります。大竹市では、事務用封筒の一部に作品を印刷、福山市では作品集や公衛協だよりの特集号で入選作品を紹介しています。作品集や作品を掲載した広報紙は、展示会終了後も不特定多数の住民に見てもらい、活用されています。

また、ボールペンなどの文具に入選作品を印刷して配布する事例も多数あり、手にとって見ても見える、長く使ってもらえるなどの利点があります。他のコンクールでの事例を含め、参考になる事例がございましたら地域活動支援センターに紹介ください。(地域活動支援センター)

主な事後フォロー活動事例

Table with 2 columns: Activity Name (e.g., 表彰状の贈呈, 参加賞の配布) and Description of the activity.



学校での表彰・海田南小学校(上)、市役所ロビーでの作品展示・東広島市(中)、廿日市民ホールでの作品展示・廿日市市(下)

TEAM「視察交流」・公衛協「市町を越えての体験交流」

県内各地で地球温暖化対策地域協議会(以下TEAMという)および公衆衛生推進協議会がさまざまな活動を展開しています。

TEAMでは他TEAMの行事を視察し、互いの技術・知識や課題を共有する視察交流事業を行っており、今年度は脱温暖化福山中央地域協議会が実施した「小学校での環境学習・出前講座」「エコクッキング」での視察交流を行いました。また、今年度から夏季大学や専門研修(ごみ減量・3Rコース、広報・ツールづくりコース、企画づくりコース)にTEAMも参加し、公衛協との交流を図っています。

平成28年度は4件の交流事業を助成

公衛協では複数の市町公衛協が、相互の活動や体験を共有すること、地域交流の促進を図ることを目的として体験交流事業を実施しています。当協会では、「合同研修 市町を越えての体験交流」として、体験交流事業の開催経費の一部を助成しています。今年度は、1月末までに次の4件の助成を行っています。

- ①廿日市市佐伯友和地区公衛協・大崎上島町公衛協(7月14日実施)
②福山市道上学区公衛協・呉市安浦地区公衛協(9月29日実施)
③大竹市公衛協・呉市安浦地区公衛協(10月21日実施)
④福山市公衛協西部ブロック会・呉市音戸地区公衛協(11月21日実施)

このうち②では、福山市道上学区公衛協の45人が呉市安浦町三ツ口湾を訪れ、呉市安浦地区公衛協が地元小学生を対象に行っている「三ツ口湾の水産教室」を体験し、カキ養殖やアマモ場について学習しました。

参加者からは「三ツ口湾の自然環境を守っている安浦地区公衛協、安浦町まちづくり協議会、行政、市民と接し、人のつながりの太さ・深さを学んだ」「呉の地元の人と交流できて良かった」「安浦地区のまちおこしの意欲を感じた」などの感想がありました。(地域活動支援センター)



室内での学習会・交流会(左)、水産教室を体験(右) (②福山市道上学区公衛協・呉市安浦地区公衛協)



さまざまな工夫で継続 イベント続々開催

【大崎上島町】大串校道 不法投棄撤去事業
大崎上島町公衛協が昨年度から取り組んでいる美化活動のひとつに「大串校道不法投棄撤去事業」があります。この事業は、当会の昨年度のコミュニティ活動助事業を充ててスタートしました。今年度は、専門研修「企画づくりコース」で継続性や町内の協力体制の拡大について企画を行い、よりパワーアップして、2月11日に開催されました。

【府中市】水辺クリーンウォーキング
12月11日、府中市と府中市公衛連が水辺クリーンウォーキングを開催し、約50人が参加しました。

【府中町】緑の仲間フェスタ・ふちゅう環境の集い
2月11日、府中町脱温暖化市民協議会が第10回「緑の仲間フェスタ・ふちゅう環境の集い」を開催しました。

【府中町】緑の仲間フェスタ・ふちゅう環境の集い
早稲田大学教授・山梨大学名誉教授の池田清彦氏による基調講演「ほんとうの環境問題」が行われたほか、府中町脱温暖化市民協議会による「活動のあゆみ」や昨年3月に策定された府中町第2次環境基本計画が紹介されました。

【府中町】緑の仲間フェスタ・ふちゅう環境の集い
午後5時、町内5つの小学校の児童による環境学習「キッズ環境調査」が実施されました。



昨年に引き続き不法投棄ごみを撤去/大崎上島町(上)、クイズに答えながら水辺クリーンウォーキング/府中市(中)、人気の牛乳パック工作/府中町(下)

水道のお話

③ 水道水とおいしい水とは

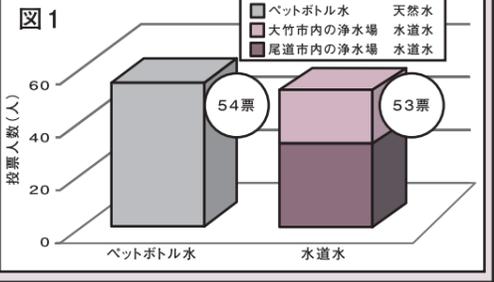
「水道のお話」最終の今回は、「おいしい水」についてのお話です。本題に入る前に、そもそも水道の目的とは何だと思えますか。水道法の第5条をみると、「安全な水」を「必要だけ提供すること」が目的とされています。安全な水が求められた背景を少しお話ししましょう。

安全でおいしい水道水

「水道のお話」最終の今回は、「おいしい水」についてのお話です。本題に入る前に、そもそも水道の目的とは何だと思えますか。水道法の第5条をみると、「安全な水」を「必要だけ提供すること」が目的とされています。安全な水が求められた背景を少しお話ししましょう。

水とペットボトル水の3つの水の中から、最もおいしいと感じる水を選んでもらいました。107人が調査に協力し、結果は、水道水とペットボトル水(天然水)がほぼ同数でした(図1)。

蒸発残留物	(30~200mg/L)
硬度	(10~100mg/L)
遊離炭酸	(3~30mg/L)
過マンガン酸カリウム消費量	(3mg/L以下)
臭気度	(3以下)
残留塩素	(0.4mg/L以下)
水温	(10~15℃)



当日は、地元高校生21人を含む55人が参加。警察官や町会議員なども参加し、2時間わたって汗を流し、軽トラック11台分のごみを集めました。

この取り組みは、多くの住民に水辺環境の現状を認識してもらい、身近な環境と自分たちの活動のつながりを見直してもらおうと企画され、今回で21回目となりました。

「ほんとうの環境問題」が行われたほか、府中町脱温暖化市民協議会による「活動のあゆみ」や昨年3月に策定された府中町第2次環境基本計画が紹介されました。

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

今回はノロウイルス食中毒について紹介します。わが国の近年の食中毒患者数の約半分は、ノロウイルスによるものです。このうち7割は11月~2月に発生しています。本シーズンの感染症発生動向調査における感染性胃腸炎患者数は、直近5年間で最も流行した平成24年のピーク時に迫る水準となっており、今後も注意が必要です。

環境協の環境生活センター
⑥ 食品衛生課

ノロウイルス食中毒に注意 しっかり手洗い!食中毒予防



ノロウイルスに感染すると、約24~48時間で、吐き気、下痢、おうと物、腹痛などの胃腸炎や軽度な発熱などの症状を引き起こします。通常1~2日で治癒すると言われていますが、治癒後も排便時などに体外へ排出されることが知られています。感染力は非常に高く、ウイルス粒子が10~100個で感染・発病する場合があります。

感染経路としては、感染した人のふん便・おうと、それらに接触した手指等を介して経口で感染します。そのため、ウイルスに汚染された手指で調理した食事を取ることにより、感染の危険が伴います。ま

た、ウイルスが空気中に飛散して感染が起こることもあるため、おうと物の処理などには注意が必要です。予防対策としては、以下の点が挙げられます。

- 排便後の食事の手洗いをしっかり行う。
- 食材は十分に加熱する。
- 感染者の便やおうと物の処理は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウム水溶液で消毒を行う。

特に家庭での対策としては、加熱調理が効果的です。調理する食品の中心部が85~90℃で90秒以上の加熱条件が推奨されています。また、手洗いをする場合は、洗剤による手洗いと流水で洗い流す工程を2回繰り返すと、効果的にウイルスを除去できることが知られています。ノロウイルス食中毒は、空気が乾燥する冬に増加する傾向にあります。対処法を確認して、感染しない生活習慣を身につけましょう。

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、

「おいしい水」を水道水に期待する声が大きくなり、水道局ではオン・オフの両面から、



4 安全な歩き方

よちよち歩きを始める前に、歩き方を教えてもらった人はいないと思います。日本人の多くの女性は歩き方は内股で、あまり格好がよくありません。

かかとの中の真ん中から着地を

このような歩き方は足がすぐに疲れます。遅かれ早かれ足裏、足首、膝や腰、股関節の痛みを発症します。もちろん、筋肉が上手に使われていないので、バランスが悪く、スタイルも悪くなります。悪い歩き方で歩く量を増やせば(心肺機能には良いかもしれませんが)、足首、膝、股関節がさらに悪くなり、痛みが出て歩くのが嫌になった人は少なくありません。

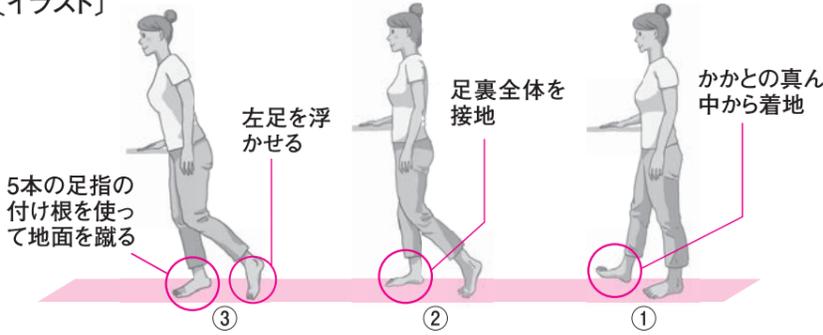
「転倒」は、誰にでも起きる恐ろしい事故です。膝や手や顔を擦りむくだけの軽傷もありますが、太ももを骨折し、寝たきりになることもあります。本シリーズでは、転倒防止のための考え方やエクササイズをご紹介します。

もう少し広く開けて、太ももの内側にある内転筋を意識しましょう。よく「かかとから着地」と言いますが、かかとの位置を間違っていると膝が伸び過ぎて関節に負担がかかります。まずは、足裏を均等に床に接地させ、正中線(頭頂から真っ直ぐ縦に通る線)を意識して膝を楽にします。

安定したテーパーや机、イスなどに手を添えて練習しましょう。次の動作についてはイラストを参照してください。

①右足のつま先を上げながら、小さめの歩幅で真っ直ぐ前に、かかとの真ん中から着地する。

【イラスト】



⑤①②③④で練習した事を意識してお腹を引き上げ、胸を張って確実にリズムカルに歩きましょう。速く大股で歩くのではなく、まずは確実にスムーズに歩くことから始めましょう。

For your healthy life, J.アライ (シリーズ終わり)



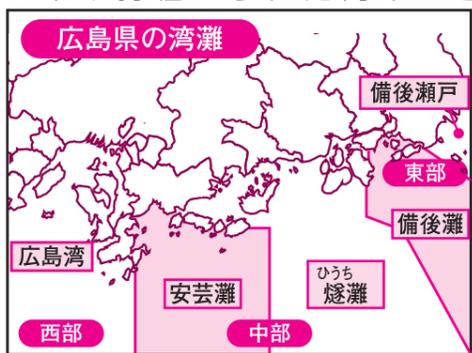
広島県では、「美しく恵み豊かな瀬戸内海の実現」を目指し、「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」に掲げられた施策について、積極的かつ効率的な推進を図ることとしています。

地域に根ざした活動の推進

意見・提案が集まる場へ

広島県では、「美しく恵み豊かな瀬戸内海の実現」を目指し、「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」に掲げられた施策について、積極的かつ効率的な推進を図ることとしています。

回収しているのか情報提供をしていただき、その結果を、発生源対策を含めた効果的な取り組み方法を検討する資料として、湾灘協議会で活用します。また、集



海域によって状況が異なることとしています。広島県は、広島湾、安芸灘、燧(ひうち)灘、備後灘、備後瀬戸の5つの湾・灘に面しています。これらを西部(広島湾、中部(安芸灘、燧

めた情報は県民に発信しますので、活動の日程調整や団体間の連携調整、イベントなど楽しさを取り入れた新しい取り組みにも活用していただければと思います。

●あなたはどんな体質? 同じように食事や運動に気をつけていても、生活習慣病が進みやすい人と、進みにくい人がいます。これは、生活習慣病の原因となる「遺伝体質」



チップを使用して複数の関連遺伝子のわずかな違い(SNP)を測定します。検査結果は、あなたの保有遺伝子のSNPから、生活習慣病等リスクの強さを3段階または5段階で評価します。14の分野のうちアルコールは、[下戸、二日酔い、ほろ酔い、酒豪、依存注意]のタイプ別評価と

遺伝的な体質リスクを評価

健康クリニックで受診できる

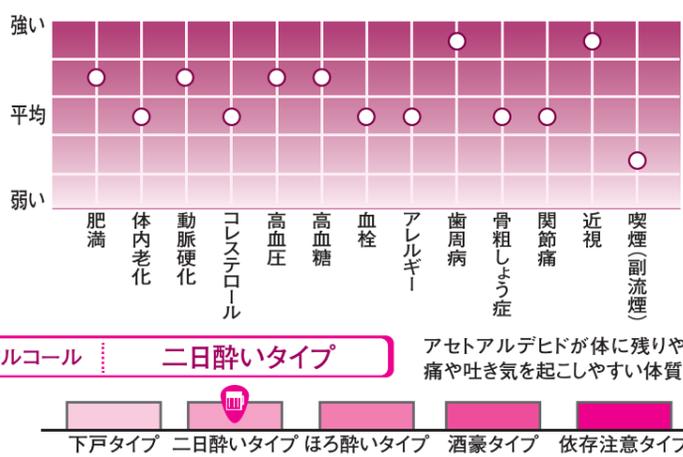
オプション検査の「サインポスト遺伝子検査」は、生活習慣病の主な発症要因となる14の分野について、生まれ持った遺伝的な体質リスクを評価し、その対処法を併せて報告します。例えば、生まれつき体内老化が進みやすい体質、血圧が上がりやすい体質、血糖値が上がりやすい体質などです。

●検査の方法と結果について 検査は約2mlの採血試料で行い、DNA

なっています(下図参照)。この参考受診例では、歯周病・近視に強いリスク、肥満・動脈硬化・高血圧・高血糖に平均より強いリスクがあることが分かります。あなたの保有遺伝子のSNPを知り、分野別のアドバイスを参考に、遺伝体質にあった食事(栄養素)やライフスタイルなど生活習慣の改善に取り組み、健康寿命のアップにつなげてください。

(健康クリニック 臨床検査課 上原 歌緒里)

【あなたのリスク評価一覧(参考受診例)】





生涯を通じた取り組みの推進 食育の実践の環を広げよう

平成28年3月に「第3次食育推進基本計画」が公表されました。「食育」と言いつつ、子ども達のためと思いがちですが、生涯を通じて取り組みが推進されています。今回の計画では、食を取り巻く社会環境や生活環境の変化、健康課題を考慮し、5つの重点課題を柱に取り組みが示されています。

重点課題1…若い世代を中心とした食育の推進
現在、子どもの朝食欠食率は4.4%、若い世代は24.7%。人間ドックの指導時にも朝

重点課題2…多様な暮らしに対応した食育の推進
少子高齢化、単独世帯やひとり親世帯の増加に伴い、食を通じたコミュニケーションや食体験の機会が減っている

食を欠食している人は夜遅い飲食の習慣も多く、生活習慣病を有するケースが多いように感じます。将来を担う若い世代にこそ、食に対する意識を高め、健全な食生活を実践して欲しいものです。

重点課題3…健康長寿の延伸につながる食育の推進
食生活と健康状態は密接な関係があります。生活習慣病の予防や改善のために、適正体重の維持、減塩、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる、よく噛んで食べるなどが目標です。

重点課題4…食の循環や環境を意識した食育の推進
現在、日本における食品ロスや年間約632万トンの推計され、1人1日茶碗1杯分の食料を廃棄している計算になります。わが国の食料自給率は39%（平成27年度力パワーベース）で、大半を輸入に頼る

傍ら、食物を大量に捨てています。今こそ食に対する感謝の気持ちをもち、生産から消費までの一連の流れを理解し、食品ロス削減の行動が広がることを期待しています。

重点課題5…食文化の継承に向けた食育の推進
平成25年「和食・日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、自然を尊ぶ日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」が評価を受けました。伝統的な食文化こそ健康長寿の生活に他なりません。季節や行事と密接に関わり、多彩な食材を用い、栄養バランスにも優れた和食の継承を推進していきたいものです。

今回の計画の新たなコンセプトは、食育の「実践」の環を広げようです。皆さん、1万人の食チエック事業に参加していただきます。これも食育の取り組みのひとつです。食育の環が広がり、人々が心身ともに豊かな食生活を実践できることを、栄養士として切に願っています。

管理栄養士 笠毛 郁江

第51回予防医学技術研究会議開催

研究成果の共有と技術の向上を目指して 全国から250人の医療従事者が集う

「新たな予防医学技術の向上をめざして」をテーマとし、2月23日・24日に、第51回予防医学技術研究会議および関連会議が広島県医師会館で開催されました。平成28年度は、当協会と公益財団法人予防医学事業中央会が主催となり、開催準備には約2年をかけた。当日は全国から延べ250人の医師、臨床検査技師、診療放射線技師、保健師、看護師が集まり、日頃の研究成果の発表と最新の医療・検査技術や知見、技術の向上や業務の改善に関する情報の共有が行われました。

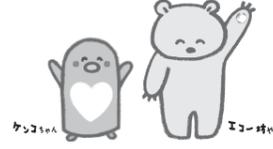
開会式は、当協会理事長佐藤均のあいさつ

では、本年度の学術賞(児玉賞)の表彰式が執り行われました。教育講演では「疾病予防と制御における健診・検診の役割について」と題し、広島大学大学院医歯薬保健学研究

院疫学・疾病制御学教授田中純子氏が講演を行いました。

研究発表は、胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんなどの検査技術、健診技術、健康支援や保健指導のほか、メンタルヘルス、顧客満足や業務改善など多岐にわたる。23部門91題の講演発表が行われました。当協会からは、検査技

平成28年度 地区衛生組織活動資金募集

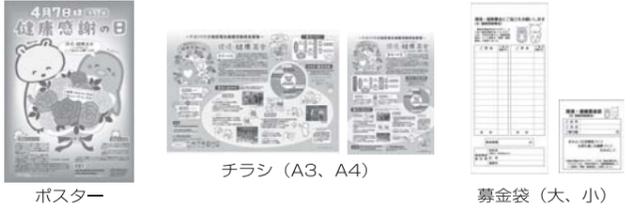


通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成28年度で57回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円) **56,031,759** (平成29年2月10日現在)

募金の使途(事務費配分金) (例)
・募金事業のPR用ポスターやチラシ、募金袋などの作成費
・振り込み手数料
(公衛協から募金委員会に振り込む際) など



市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)	市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,557,450	90.6	北広島町	1,094,700	97.8
海田町	2,399,179	94.9	安芸高田市	2,077,700	96.8
熊野町	1,433,640	100.9	東広島市	4,484,643	100.8
坂田町	374,100	107.7	三原市	1,768,220	98.3
江田島市	1,854,150	99.0	世羅町	905,050	95.5
竹原市	1,679,900	97.6	尾道市	4,021,000	89.5
大崎上島町	341,000	99.5	福山市	8,784,194	96.2
大竹市	2,536,362	100.0	府中市	1,096,726	100.3
廿日市市	3,255,752	95.9	神石高原町	290,200	90.0
廿日市市大野	2,527,300	99.7	三次市	1,975,752	81.1
廿日市市佐伯	409,321	101.7	庄原市	2,332,900	95.6
廿日市市吉和	53,000	83.6	呉市	7,765,653	97.3
廿日市市宮島	203,605	97.5	その他	55,212	82.5
安芸太田町	755,050	99.5	合計	56,031,759	96.1

市町別一覧表
※この表は、平成29年2月10日までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。